

1.講座名	水辺のレスキュー講習会
2.開催日時	2014年(平成26年)11月18日
3.開催場所	北九州市立玄海青年の家
4.河川名	頓田貯水池
5.参加人数	子ども 0名、大人 14名、指導者 2名
6.講座内容	(各カリキュラム毎に ①カリキュラム名称・②概要・③講師名を記載し、写真を添付。1日の活動を総括して、最後に考察を記載。)

科目名：オリエンテーション

講師名：西胤 正弘

概要：

講師紹介の後、一日の流れを確認。

「川に学ぶ体験活動協議会(RAC)」についての紹介を行う。



科目名：事故事例を知る

講師名：西胤 正弘、砂田 絵里

概要：

自然体験活動での事故事例を挙げながら、水辺の活動には高いリスクが存在すること、重大事故につながる可能性が高いことや、川に潜む危険について、イラストや動画を用いて解説。事故を防止するための手立てについての講義を進めた。



科目名：スローロープの使用方法について

講師名：西胤 正弘、砂田 絵里、

概要：

レスキューの基本はシンプル・安全・素早くの3つであることを確認した後、落水した人をどうやって助けることができるか、意見を出し合った。そして、道具を使ったレスキューはリスクが高く、特にコンタクトレスキューの危険について紹介。

ロープレスキューは、投げる側はもちろん、レスキューされる側も使い方を知らなければ事故につながることや、ロープ収納も練習を重ねて素早くできる必要があることなど、練習を重ねていないと使えない道具であることを確認。



<p>科目名：スローバックレスキューの実習</p>	
<p>講師名：西胤 正弘、砂田 絵里、</p>	
<p>概要：</p> <p>バディでの軽いキャッチボールを実施。20m近く離れた相手に正確に投げられるかを練習。さらにロープを出した模擬レスキューへ発展させた。</p> <p>続いて、貯水池を横切るカヌーを要救助者に見立てたロープレスキューを実施。</p> <p>ロープを投げた後、スパゲティロールにして再度レスキューする方法、バックに水を入れてレスキューする方法なども実習した。</p> <p>水に濡れた状態のロープの重さ、扱いづらさなどを体験した。</p>	
<p>科目名：グループワーク</p>	
<p>講師名：西胤 正弘、砂田 絵里、</p>	
<p>概要：</p> <p>ハイパーミアを検証するビデオ映像を視聴した後、どうすれば防げたのか意見を出し合った。</p> <p>活動を安全に進めていくためには、トレーニングを受けた指導者やスタッフの存在が大切であることを確認した。</p>	
<p>科目名：ふりかえり</p>	
<p>講師名：西胤 正弘</p>	
<p>概要：</p> <p>道具を使ったレスキューは正しい使い方と練習を積み重ねなければ使えない技術。まずは身近なモノでできるレスキューが大切であることを確認。</p> <p>指導者は様々な技術や知識を体得していくことが必要であること、身近なレスキュー方法は、参加者に伝えることのできる大切な知識でもあることを確認して、講習会を終えた。</p>	
<p>考察</p>	<p>・九州や四国から、実際に水辺の活動を進めておられる施設や団体の指導者の方が参加された。近年、水辺の活動での事故が多発しており、指導者のあり方について真剣に考えておられる方の多さ、そして、リスクコントロールについての知識や技術の普及の必要性を改めて認識。指導者育成とスキルアップの場として、取組みを継続させていく重要性を感じた。</p>